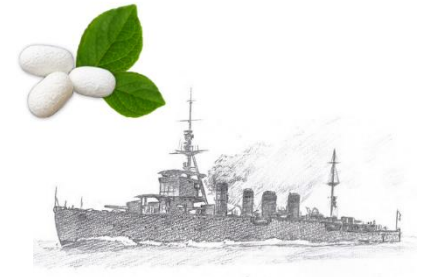


東京教組

授業づくりの本質を学べる授業講座

「今だから子どもたちに伝えたい

戦争と平和」～戦争はなぜ起きるのか～



いよいよ来年度から新指導要領が本格実施されます。道徳の教科化、英語科やプログラミング教育の導入など授業時数を3年生以上は35時間も増やし、ただでさえ教材研究もまともに行うことができない状況をさらに悪化させ、私たちはさせられる教育に慣れてしまうことになってしまいかもしれません。

そんな中でも、「子どもたちのどんな力を育てることが大切なんだろう?」「そのためにどんな授業をつくれればいいんだろう?」。良い授業をつくりたいという思いは私たちの中にあります。子どもたちに伝えていくべき大切なこととは何なのか、今回はそんなことを皆さんで考える授業講座にしたいと思います。

そこで今回、栃谷明子さんを講師として「今だから子どもたちに伝えたい戦争と平和」というテーマで授業講座を行います。

栃谷さんは「人間の歴史の授業を創る会」などの民間教育団体で長く活躍され様々な授業実践を創ってきた方です。今回は栃谷さんが多くの先輩から学び、子どもたちからもらったたくさんの課題をもとに作り上げてきた実践を紹介していただきます。戦時中に生きてきた人たちの気持ちになって考えられるような立体的な実践です。栃谷さんの授業実践を共に楽しみながら子どもたちにとって必要な学び、大切な学びについて一緒に考えてみましょう。

日時 2019年6月22日(土)13時～15時

会場 日本教育会館 8階 808会議室

講師 栃谷 明子さん

授業講座の内容

「絹と軍艦」 (の授業)

江戸末期、開国により、ヨーロッパ列強にならって、国の近代化を進めた日本。産業革命によって世界には大市場が生まれ出され、日本もそこへ参入します。

そして、明治、大正、昭和と、台湾、朝鮮を侵略し、日清、日露、第一次大戦、シベリア侵略、日中戦争、そして太平洋戦争と侵略戦争を繰り返し、たくさんのアジアの人々の生活や命を犠牲にして、列強の仲間入りをしていきました。

その戦争をするには、たくさんの威力のある兵器が必要です。明治政府は当然軍備に力をいれました。海を渡って外国を侵略するためには「軍艦」が必要です。「軍艦」を作る技術は、当時の日本にあったのでしょうか。「富国強兵」という四文字熟語は、だれでも知っている歴史用語の一つです。

でも、その言葉の裏に、どんなことがあったのか、当時の人々や子どもたちがどんな思いをして生活していたのか

「絹」と「軍艦」という一見結びつきそうもない二つのことがらを通して、この時代をのぞいてみませんか。

皆さんに色々予想して貰ったり話し合ったりしてもらったりする時間を多くとり、十分な時間はとれませんが、繭から糸取りの体験もしていただく予定です。

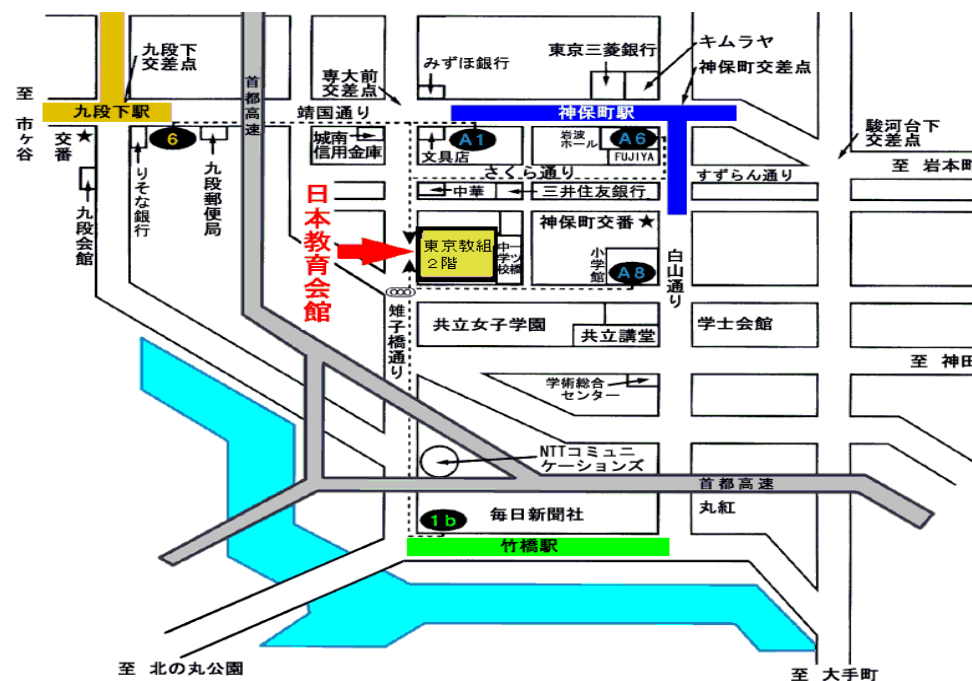
その中で、時代を超えて、今の私たちの生活にも重なることが出てくるかもしれません。

〈会場〉日本教育会館 8階 808会議室

(日本教育会館)

地下鉄神保町・九段下徒歩5分

問い合わせは東京教組 03-5276-1311



たくさんの方を誘って参加してください。